HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	テレビ特撮史における『ウルトラマン』シリーズの研究 : 文化的位相と表象性を中心に [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	神谷, 和宏
Citation	北海道大学. 博士(国際広報メディア) 甲第15804号
Issue Date	2024-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92063
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Kamiya_Kazuhiro_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）　氏名：神　谷　和　宏

審査委員	主査　教授	西　村　龍　一
	副査　教授	山　村　高　淑
	副査　准教授	増　田　哲　子

学位論文題名
テレビ特撮史における『ウルトラマン』シリーズの研究
―文化的位相と表象性を中心に―

口頭審査は 2023 年 12 月 27 日 13:00 より 307 室にて 1 時間 30 分行われた。

最初に申請者から約 30 分、パワーポイントを使って博士論文の概要が説明され、その後、３人の審査員との質疑応答が約 45 分間行われた。

審査員の総評としては、まずウルトラマンシリーズの通史的研究として、たんに歴史的経緯を追うのではなく、時代ごとの性質の変化が明瞭かつ対比的に構成されている点が高く評価された。また既に同種の優れた先行研究も存在する 70 年代までの分析においては、具体的な映像分析においてシリーズの文化的・社会的多様性を明らかにした点に新規性があり、また 80 年代から現在にかけての論述においては、同時代のポップカルチャーの趨勢に対応して、シリーズが全体として自己反省化ないし二次創作化することを論証した点が評価された。また研究対象を通じた単なる文化史の記述から進んで、むしろ社会文化史と言えるほどの視野の広がりを見せている点、さらには安易な観光ブームへの批判を含んだ観光学との分野横断的な研究となっている側面も評価された。ウルトラマン研究として、制作サイドのインタビューや様々な同時代の新聞・雑誌記事、テレビ番組の情報を収集した資料価値の高さも言及され評価された。

質疑応答においては、80 年代以降にシリーズから表象性が衰退したという分析はその通りだろうが、それならば俯瞰的表象性の装置としての怪獣はなぜ継続されたのか、その意味に関して論の構えをもう一回り大きくすることが求められるのではないかという指摘がなされた。また 80 年代に関して「軽佻浮薄」な時代性が特撮の衰退を招いたかのような記述がされているが、ジブリを初めアニメに関しては必ずしも同時代に「真面目な」ものが衰微したとはいえないことが指摘された。これに対してはアニメは特撮と異なり、前の時代から教育的でまじめな作品が受容のベースにあったことが考えられると回答された。これと関連してそうした受容の分析

については、人口動態も考慮すべきであるという意見があった。さらに 2000 年代以降にデータベース消費の概念を適用することについては、メディアミックスを展開する制作側の資本の動きも考慮すべきではないかという指摘もなされた。また通時的な社会文化的記述として労作であるのは疑いないが、全体を貫く社会的・学術的な概念があればさらに優れたものとなったのではないかという意見もあった。これと関連してポストモダンといった定説が、ウルトラマンシリーズを分析したからこそ違った理解ができるという要素があればさらによかったとコメントされた。

以上の総評とコメント、質疑応答の後、執筆者と他の参加者２名に退室してもらい、３人の審査員で 15 分程度合否を協議した。博士論文の学術的水準は、最初の総評にあるような理由から十分に学位授与の水準を超えており、また質疑応答からは、執筆者は自身の論文の価値とその今後の課題とを客観的に認識していることが十分に確認された。よって審査員全員一致して合格とした。